

森林の働き

地球温暖化を防止

森林は、地球の温暖化防止に大きな役割を担っているといわれています。私たちの生活や産業活動から排出する二酸化炭素の量は、近年、急激に増加しています。その結果、温室効果ガスの層が必要以上に厚くなり、地球の温度が上昇しています。

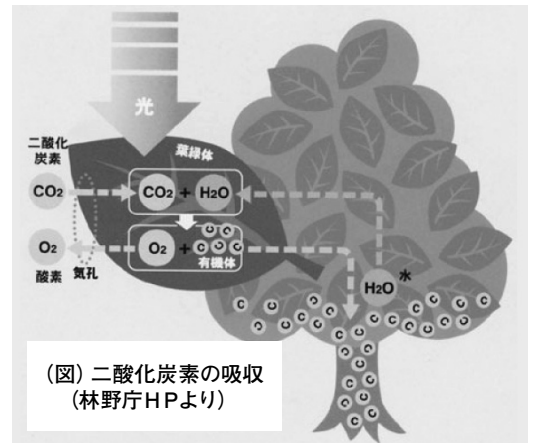
成長期の樹木は、大気中の二酸化炭素(CO₂)と土壌の水(H₂O)を吸い込み、炭素(C)を有機物として幹や枝などに蓄積して、酸素(O₂)を放出します。元気な樹木は、ほとんど二酸化炭素を吸収しますが、いくらでも吸収するわけではありません。成熟した樹木や古木の吸収量は低下し、朽ちた木は、蓄積していた二酸化炭素を放出するようになります。

(下図)

つまり、元気な森林を守り育てること、そして適正に管理することが、地球温暖化の防止につながるとされています。

「緑のダム」の役割

森林はダムの役目をしていきます。森林の土壌には、スポンジのようにたくさんすき間があり、



降った雨を吸収して蓄えます。そして、蓄えられた水は、ゆっくりと長い時間をかけて河川へと流れていきます。大雨が降ったら土壌に水を蓄えて洪水を防ぎ、晴れの日が続いたら貯水を少しずつ河川に流して渴水を防ぎます。つまり、人工のダムと同じように、自然に貯水量を調節しているのです。これを、「水源かん養機能」と言います。土壌中に浸透した雨水は、天然のろ過機能により浄化され、ミネラル成分を含んだおいしい水となります。森林から川へと流れた水は、私たちの飲料水だけでなく、農産物をはぐくみ、海へとたどり着きます。森林は、すべての命の源を作り出しているのです。

土砂崩れを防ぐ

適正に管理された森林に入ると、足元がふかふかしています。積み重なった落ち葉や枯れ枝は、雨水が直接地面を削ったり土を流したりするのを防ぎます。そして、木や草の根が網目のように地中に張り巡らされているため、土や石をしっかரிつかんで土砂崩れが起きるのを防ぎます。

森は恵みの宝庫

森林は、植物だけでなく、野生の鳥や虫、動物などさまざまな生き物に、すみかや食料を提供しています。

美山町にある芦生の森(京都大学芦生研究林)は、東京デイズニールランドおよそ82個分に相当する広大な面積(4,185.6畝)で、その半分は人の手が加えられていない天然林です。そこには、水河期の遺存種リュウキンカや、学術上貴重なアシウテンナンショウ



▲アシウテンナンショウ

ウなどの植物も見られます。また、ツキノワグマやイヌワシ、特別天然記念物のオオサンショウウオなども生息しています。

一度人の手が加えられると、再び天然林に戻すことは容易ではありません。自然の力によって成り立っている天然林は、森林本来の姿として守っていくべき貴重な存在です。(芦生の森への入林に際しては、必ず京都大学芦生研究林事務所での手続きが必要です)

そしてもう一つ、森林は私たちに心地良い安らぎを与えてくれます。さわやかで澄んだ空気、木漏れ日のまぶしさ、木々や土のにおい、風にそよぐ枝葉の音が、慌ただしい日常から解き放ち、心を穏やかにしてくれます。

天気の良い日には、水筒、帽子、汗ふきタオル、そして動きやすい服装と運動靴を用意して、ゆったりと森林を散策してみるのはいかがでしょう。季節を全身に感じ、いろいろな新しい発見があるかもしれません。

※11月15日から2月15日は、狩猟期間となっています。散策などは、目立つ服装を着用し、クマ鈴を持つなどして事故のないようにお楽しみください。